

ICT利活用の政策立案に向けた1日

情報流通行政局情報通信政策課

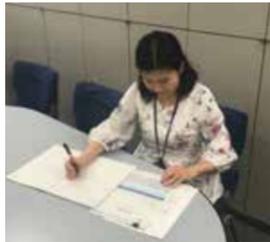
宇都宮 千咲

UTSUNOMIYA CHISAKI

Message

ICTの活用によって社会や生活を豊かにしたい、その思いで私は総務省の門を叩きました。総務省の所管範囲は広く、毎日が勉強ですが、とても刺激的です。また、若手としての意見を求められる場も多く、年次は関係なく、経験や成長ができる職場です。積極的に仕事をしていきたい、政策立案に関わっていききたい、という方にとって、総務省はとても心地の良い環境だと思います！

当課では、「ブロックチェーン利活用推進事業」として、行政や公共性の高い分野でのブロックチェーン技術の活用についての実証等を行っています。今日は明日の検討会に向けての準備の1日です。



10:00 上司へご相談

検討会に向けての準備として、有識者の先生方にご議論いただく論点について、上司にご相談します。ご指摘いただいた点は、午後の事業者の方との打合せで再調整し、万全の状態で開催に臨めるようにします。

12:00 同期と銀座ランチ

普段は省内の食堂でお昼を食べることが多いですが、時々銀座周辺まで足をのびます。今日は同期と銀座でイタリアンのランチです。午後の業務に向けて気分転換です。

15:00 事業者との打合せ

ブロックチェーン技術に関する調査研究の請負事業者の方と打合せです。午前中に上司にご指摘いただいた事項を中心に、検討会開催に向けて最終確認を行います。資料の修正事項は、打合せの場で全て解決できるようにしています。

17:00 検討会準備、退庁

明日の検討会の開催に向けて、作成した資料の最終確認と会議室の準備を終えたら、本日の業務は終了です。早めに退庁し、しっかり休みます。明日も頑張ります！

検討会では、実証事業の実施状況や成果についての報告や、有識者の先生方の議論が行われました。検討会でのご意見や結論を、運用・ルール面の課題整理に反映していきます。

1 Day

人口減少時代の地域を考える1カ月

自治行政局地域自立応援課

戎 莞爾

EBISU KANJI

Message

人口減少や東京一極集中が進む時代、みなさまの「地元」や「ふるさと」はどうなっていくのでしょうか。地元熊本の商店街で、人やお店が減っていく様子を見て、地域のために仕事ができる総務省への入省を決めました。総務省には地域に対して熱い思いを持つ人が集まっています。就職活動では様々なことに悩みましたが、当時の決断は正しかったと感じています。みなさまと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



1週目 京都府綾部市への視察

京都府綾部市の過疎化の進む集落で、住民と行政が協力し、特産品の開発や販売を行う取組を視察します。懇親会では地元の食材を使ったお鍋に舌鼓を打ち、普段では聞くことができない貴重なお話を伺います。

2週目 「移住交流フェア」の開催

都市部から地方への人の流れを作り、東京一極集中の是正を目指して、地方での暮らしや仕事など知ることができるイベントを開催します。多くの方に参加いただき、地方移住への関心が高まっていることを感じます。

3週目 研究会に事務局として同席

人口減少時代に地域はどうあるべきかを検討する研究会に出席します。委員の先生方の鋭い意見や地域での先進的な取組に感心させられるとともに、勉強すべきことがたくさんあることを改めて実感します。

4週目 モデル事業の報告書確認

30年度から新たに始まった「関係人口」創出モデル事業。モデル自治体から提出された最終報告書の内容について、先輩職員と一緒に確認を進めます。この取組が全国に広まるよう、話し合いにも熱が入ります。

1 Month

現場の声を聞く仕事の1年

行政評価局評価監視官付(復興、国土交通担当)

今村 健太

IMAMURA KENTA



Message

行政評価局調査の対象となる行政分野は多様です。総務省に居ながら、他府省の様々な分野の業務を深く知ることができるのは大きな魅力だと思います。若手職員の私でも、貸切バス、訪日外国人や災害対策など、既に様々な分野の調査を担当しました。そういう意味で、当局の仕事は、好奇心旺盛な方や、また、「飽きっぽい」方にも向いているのではないかと思います。少しでも興味を持たれた方は、ぜひ一度、総務省に足を運んでみてください。



4月～7月 調査テーマ候補の発掘

各府省の業務の実施状況について、管区行政評価局等と協力して行っている常時監視活動や、行政相談で受け付けた内容等を端緒にし、調査テーマとすべき行政上の課題がないか、情報収集を行います。

若手の柔軟な発想が求められていることもあり、気になる情報があれば積極的に発信し、調査テーマとなり得るか、皆で議論します。

7月～9月 調査計画の策定

調査は1人ではなく、班を結成して実施します。若手であっても調査項目を任せられ、管区行政評価局等に調査を指示するための計画を作成します。

計画の善し悪しは調査結果に影響するため、1つの正念場です。上司・先輩にアドバイスをもらいながら、何とか計画を作り終えた時には、ホッとするとともに、達成感を味わえます。



10月～12月 実地調査の実施

調査計画に基づき、全国の管区行政評価局等が実地調査を開始。本省担当者も現地に出張して調査を行います。

調査対象機関は行政機関に限られず幅広いので、調査の趣旨等を丁寧に説明しつつ、「現場の生の声」を聞き出せるよう最善を尽くします。

また、出張先では各地の美味しい物を堪能できるのも、1つの楽しみです。

1月～3月 取りまとめ～公表

実地調査により明らかになった行政上の課題について、担当府省の職員と議論しつつ、改善方策を検討します。実地調査を経て「現場の気持ちが変わる」ことは、議論の際にも我々の強みになります。

調査結果が公表され、新聞等で報道されると、世間に影響力のある仕事をしていることを実感し、次の調査に向け身が引き締まります。



1 Year